北海道
日伊協会会報

VOL. 55号　2016年5月
発行　北海道日伊協会
事務局　札幌市中央区南１条東２丁目
ブライトサッポロ内
電話(011)241-0345 FAX (011)241-0567

日伊国交 150 周年　９月に親善訪問団派遣

「ヴェルディ劇場コンサート」と「食の交流」

日伊国交 150 周年を記念して北海道日伊協会は、会員を中心にしたイタリアツアー「ヴェルディ劇場日伊友好親善コンサートと北海道&イタリア食とワインの交流会」を９月に実施します。コンサートの舞台に上がる 27 人と同行会員合わせて 40 人を超える派遣団が整い、三部安紀子会長の下でステージ内容などの準備が進められています。

Casa Verdi で慰問演奏も

日程は8日から16日までの９日間で、まず、オペラの巨匠ヴェルディの故郷ブッセートのヴェルディ劇場で日伊友好親善コンサートを開催します。北海道出身の若手ソリストらが、地元音楽団体 “Association friends of Verdi in Busseto”傘下の合唱団と共演します(11日)。翌日はレッジョ・エミリアのアグリツーリズモで『北海道&イタリアの食とワインの交流会』の開催、14日にはミラノ郊外の Casa Verdi(音楽家ための憩いの家)訪問と慰問演奏など、友好親善プログラムを予定しています。

問い合わせは、TEL: 070-5616-3316
E-mail: shin−01230brightsapporo.com

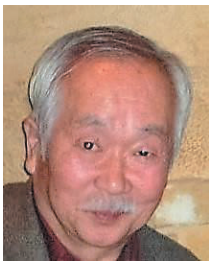
火山をテーマに　今年最初のサローネ開催

新春最初の Salone d’Italia（イタリア懇話会）は１月 30 日（土）札幌市中央区の丸井今井で開かれ、鈴木哲也・会員（北海学園大学非常勤講師、理学博士，工学博士）が「イタリアの火山―その恵みと災害」をテーマに講演しました。

イタリアは日本と同じように火山がつくり出した国。鈴木さんは、国土の成り立ちから、神話や絵画、音楽、そしてワインまで生活文化が火山の影響を受けていることを、38 枚の貴重な写真を使って分かり易く解説しました。

三部安紀子会長はじめ 30 人が参加、引き続き懇親会に移り、会員それぞれの近況が報告されました。

米坂ヒデノリ元会長逝く



北海道日伊協会の第二代会長を務めた米坂ヒデノリさんは四月一日、釧路市内の病院で逝去されました。八十二歳でした。代表作最高裁判所大ホールの正面レリーフ「神の国への道」（一九七四年）、釧路市文化会館前庭の「凍原」などを制作。当会が創立２０周年を迎えた９４年５月、故村田忠良さんから会長職を引き継ぎ、０８年６月に現三部安紀子会長にバトンを渡すまで１４年間にわたって、北海道日伊協会の発展に尽力されました。この間、北海道文化賞、北海道功労賞を受けています。「偲ぶ会」が5月18日釧路市内のホテルで開かれ、三部安紀子会長が参列しました。＝関連の追悼の言葉２～４面、偲ぶ会１４面に）

ミチコの映画館

「木靴の樹」 L'albero degli zoccoli

1978年 イタリア　カラー／187分
日本初公開 1979年
監督・脚本・撮影・編集：エルマンノ・オルミ
1978年カンヌ国際映画祭パルム・ドール受賞

胸打つ物語 ミレーの絵のように

19世紀末の北イタリア・ベルガモの農場で、土地・住居・農具など多くを地主から厳しい条件で借り、集団生活している4家族。

バティスティ一家は働き手として息子ミネクを必要としているが、神父の強い勧めで息子を遠く離れた学校に通わせることにする。3人目の子供が生まれた日、ミネクの木靴が帰り道で壊れてしまう。父はポプラの樹を伐って新しい木靴を作るが、その樹も地主のものだった。

ルンク未亡人は洗濯女をして、年老いた父親と大勢の子供たちを養っている。貧しい生活を心配する神父は、幼い子供を里子に出すことを提案するが、長男は家族が離れ離れになることに反対する。

ブレナ一家には、美しい娘マッダレーナがいる。ある青年に見初められ結婚し、新婚旅行で叔母が院長を務める修道院を訪ねるが、そこで保護されていた捨て子の乳児を引き取ることにする。

フィナール一家は、収穫物の重量を小石でごまかしたり、父と息子がしょっちゅう喧嘩している騒がしい家族。祭りの日にフィナールは金貨を拾い、誰にも知られぬよう隠していたが失ってしまい、またひと騒動起こす。

農民たちが大地と共に貧しくもたくましく生きる様子を描いたこの作品は、1978 年カンヌ国際映画祭パルム・ドールを受賞した、オルミ監督の代表作と言える。

監督の両親は農家の出身で、ストーリーは幼い頃祖母に聞いた話をもとにしているそうだ。

出演者は全て素人ベルガモの農民である。地元の人々を起用し、搾取される貧しい民を描く本作は、ヴィスコンティの「揺れる大地」を想起させ、ネオレアリズモの流れを感じさせる。

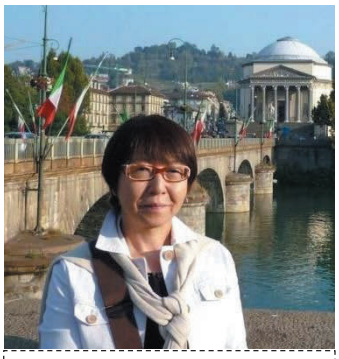
撮影は照明機材を使わず、自然光とロウソク・オイルランプで行われているが、映画を観た多くの人がミレーの絵画のように美しいと評している。まさに、穏やかな光が映し出す風景はバルビゾン派の、室内の明かりが作り出す光と影はレンブラントの作品を彷彿させる。また、バックに流れるバッハの楽曲は美しい映像と調和して心深く響く。

映画の冒頭、物乞いが4家族の所にやってきて、皆が彼に食べ物を分け与えるシーンでは、ルンク未亡人が「貧しい人ほど天国に近いの」と子供たちを諭す。神に祈りを捧げる場面は随所に出てくるが、彼らの深い信仰と慈悲の心を象徴し、胸を打つエピソードである。

過酷な生活を強いられ、それぞれの家族は苦悩を抱えているが悲壮感はない。家族の絆や隣人との心の交流を、大人が子供に向ける温かく優しい目差しや、皆が寄り添うように明るく暮らす姿で表現している。

心が揺さぶられるような感動ではなく、ゆっくりと心を満たしていく穏やかな感動、これはオルミ作品の特徴ではないだろうか。

別れの言葉を交わすこともなく、暗闇の中に消えていくバティスティ一家と、それをたたずんで見送ることしかできない3家族のラストシーンは、受け入れざるを得ない現実と彼らの心情を巧みに描いていて、観終わった後、静かな悲しみの余韻が残る。



金川道子（かながわ みちこ）
北海道日伊協会理事
グラフィックデザイナー

シアターキノにて上映予定
・「木靴の樹」5/28～6/3 まで
・新作「緑はよみがえる」は 8 月公開予定

2016年度　総会は7月10日(日)に

総会後、Salone d'Italia と懇親会を開催します(企画中です)

会場:札幌グランドホテル17階青雲の間(札幌市中央区北1条西4丁目)

彫刻家・米坂ヒデノリ先生を偲ぶ会　5月18日釧路市のANAクラウンプラザホテルで開かれ、三部安紀子会長が参列しました＝**写真**。

【弔電】ご急逝のお知らせに接し、先生の後を継いだ者として、謹んでお悔やみを申し上げます。

先生は、ながく当会理事のあと、平成6年から20年まで14年間、第3代会長をおつとめ下さいました。この間、彫刻家としての活動の合間を縫って、北海道とイタリアの民間同士の親善友好にご尽力されたことに、深い敬意を捧げるとともに、厚く感謝申し上げます。

先生の沢山のご造形は、いずれも静謐、敬虔の気風が漂い、気品に満ち、観る私どもを魅了し、感銘深いものがございます。その制作の動機を、先生は、会員に折あるごとに、丁寧に、惜しみなく、解き明かして下さいました。このような芸術家会長を頂く協会は、全国でも稀で、会の誇りでもございました。

設立40年を越えた当会は、折から日伊国交樹立150年を迎えます。先生が、これからは、高きところから、愛するご遺族、ふるさと釧路の方々、そして私どもの働きを見守っていただくことを、信じております。

先生ゆかりの方々と共に、地上でのご生涯を讃え、「さようなら」を申し上げます。

北海道日伊協会　会長　三部安紀子

Trofeo Tazio Nuvolari の仲間　京都に集合

これまでの Trofeo Tazio Nuvolari in Hokkaido(クラシックカーのラリー)に参加した人の集まりが京都市内のイタリア総領事の公邸で開かれ、昨年の道内ラリーに初参加したマリアンナ・チェスパさんも主催者の若槻さんの招待を受けて出席しました。(**写真前列中央マリアンナさんと全国の仲間たち**)

若槻さんとイタリア総領事マルコ・ロンバルディさんは昔からの知り合いなのでこの計画を二人で立てたそうです。集合写真に写っている方々は、数年前と今年の参加者です。

今年マリアンナさんが乗る車のドライバーは北海道ゆかりの Fosco Maraini の奥さんの兄弟。「面白いですね！Fosco Maraini の親戚と一緒に北海道を車で回る機会があるなんて考えてもみなかった」とマリアンナさん。

今年のラリーは7月16日～18日の予定。ルートは千歳でスタート、旭川・美瑛・富良野・層雲峡・帯広・千歳を巡るそうです。

伊語検定協会専務理事 松本秀子さん急逝

イタリア語検定協会・松本秀子専務理事は、昨年 12 月 27 日に蜘蛛膜下出血で急逝されました。渋谷で外国語学校を立ち上げ 20 年前に、検定協会を設立。1995(平成8)年。北海道での試験実施を当会にお願いに来札され、長いお付合いが始まりました。

昨年4月19日、「かでる2・7」で開いて頂いた伊検主催,当会後援の「札幌セミナー」は、終日 100 人程のイタリア語学徒や市民が、イタリア語とスローフード運動への理解を深めた得難い機会でした(会報 53 号に詳報)。セミナー前夜の歓迎交歓会は、三部会長以下当会会員と、松本専務ほか同協会岩崎氏、スローフード・ジャパンの石田雅芳副会長。伊人講師など 20 名余の親しく賑やかな交わりができ、今は良い思い出となりました。会報 44 号は松本女史の温顔・ご寄稿を所収しています。(事務局・山田晋侑理事)

編集後記　釧路から米坂ヒデノリ前会長の訃報。2 人の会員が振り返るように創立 30 周年前後の生き生きとした活動は長く記憶されるでしょう▼日伊国交 150 年の派遣団、実り多い交流と旅の無事を祈ります。(彦)